

MBR目詰まり制御など説明

神戸大先端膜
工学研究機構

ハイブリッドで講演やサロン

産学連携で膜工学の先

が聴講した。

端研究などを推進している神戸大学先端膜工学研究推進機構はこのほど、膜工学秋季講演会・膜工学サロンを対面式とオンラインライブのハイブリッドで開催した。講演会は産官学の4題、サロンは水処理など11グループで討論などが行われ、オンラインは約110人

講演会では本多了・金

沢大学理工研究地域地球社会基盤学系教授が「微生物代謝に着目したMBRバイオフィアウリングの機構解明とその制御」と題して講演。MBR（膜分離活性汚泥法）では、汚泥微生物が産生するバイオポリマー（細胞外高分子物質）が目詰まりな

どの主な原因とし、生理

活性物質のバニリンを用いた制御の実験を行った結果、目詰まりなどの抑制が確認できたとしている。また、下水中の新型コロナウイルス除去性能も紹介し、MBR処理水中の新型コロナウイルス遺伝子濃度は、他の処理方式より安定して低かったとまとめた。

サロンでは水処理グループのDDPSペシャルティ・プロダクツ・ジャパンが「膜通気式生物膜法(MABR)の紹介事例」膜で酸素を分解供給する省エネルギー型酸素供給法」、信州大学が「陽電子消滅寿命測定装置を用いた水処理膜の評価」、先進膜材料・膜プロセスグループの東洋紡が「高分子吸着を応用したRO膜開発事例の紹介」と題し、それぞれ講演や意見交換などが行われた。

水 道 産 業 新 聞

2022年(令和4年) 11月3日(木曜日)